

週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月5日(火)

《奉仕の前に、イエス様に耳を傾けましょう - 自分自身が満たされるように - 》

今日の福音(ルカ 10・38 42)については、何回も申し上げてきたので、今日はこのような話がよいのではないかと考えてみました。

今、さいたま教区の活動の一つに、『傾聴ボランティア』というものがありますね。皆様ご存知ですよ。『傾聴ボランティア』の人たちはどんなことをするのでしょうか。この教区で、なぜ『傾聴ボランティア』というグループを作ったのでしょうか。『傾聴ボランティア』の目的は何でしょうか。それは、“悩みを抱えて教会を訪れる人たちが多くて、司祭だけでは対応しきれないので、信徒の中にも悩み事を聞くグループを作る”ということです。そしてもう一つは、“教会の中の1人暮らしで寂しい思いをしている人、体が不自由な人、寝たきりの人、そのような人々の話を聞いてあげる”ということです。

そのような活動が望ましいものであることは、みんな分かっています。しかし私は個人的に、順番が間違っているのではないかと考えています。もちろん、『傾聴ボランティア』がどのくらい活発に活動しているのかわかりませんが、そのボランティアの教育のためには、いろいろなプログラムが組み立てられていると思います。しかし、私の眼にはそんなに上手に活動しているようには見えないところがあります。

さあ、今日の福音で少し考えていただきたいと思います。姉のマルタと妹のマリアがしたことは、どちらも大切なことです。しかし私たちが客観的に見ても、マルタのようにマリアに腹が立つと思います。大事なお客様のために忙しくもてなしの準備をしているのに、妹は自分だけイエス様の足もとに座っておしゃべりし、よく見えることばかりしています。それを見たら腹が立ちますよ。これは私たちが持っている正義の基準です。この教会でも、もし一緒に働いている人が妹のマリアのような事をしていけば、気に入らない気持ちになるのは当たり前だと思います。しかしイエス様は何とおっしゃいましたか？「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」とおっしゃいましたね。

今日、この言葉をとおして私たちが考えなければならないことは、いろいろな大事なことがあるけれど、その中でも優先しなければならないことがある、ということです。それをイエス様はおっしゃっているのです。たとえば、「人の言葉に耳を傾けること」は大事なことです。しかし、その前にしなければならないことがあります。それは何だと思いませんか？ 私たちが信者ならば、そしてイエス様が私たちの救い主であると信じているのなら、何よりも先ずイエス様に耳を傾けてから、その後、人に耳を傾けるべきです。しかしそれが少し混乱しているようです。全然祈りもしないで、「奉仕の生活

をしている。」「いろいろな善いことをしている。」と言う人がいます。しかしその人の中に信仰的な姿が見えなければ、それは長くは続きません。これは歴史が証明しています。ですから、どのような形であれ「私は福音的な仕事をしている。」と言うのなら、その前に先ず信仰的に満たされなければ、必ず駄目になってしまいます。

教区が『傾聴ボランティア』に力を入れるのは、当たり前なことかもしれません。一人ぼっちの人が多すぎるから、その人たちの頼りになる必要があります。少しでも体の丈夫な人が彼らに耳を傾けようとするのは、本当に素晴らしいことです。しかし、耳を傾けようとする前に、先ず自分自身が満たされなければなりません。それには、祈りをとおしてイエス様と付き合うことが必要です。私はどのくらいイエス様に耳を傾けているのか、考えてみてください。

マルタの一番大きい失敗は、イエス様が何を望んでいるか分からなかったことです。イエス様は、マルタとマリアの姉妹に会って、ご自分の話を聞いてほしい、心を分かち合いたい、と思ったのでしょう。しかしマルタは、料理や飲物でイエス様をもてなそうとしたのです。大間違えでしょう。結局マルタに残ったのは、感情的な傷です。文句、不満、不平。しかし、何もしていないマリアは「良い方を選んだ」とほめられています。

皆様、今日の福音をとおしてもう一回考えてみましょう。私たちは、自分の時間を犠牲にしながら、教会のために働くように誘われています。しかし、どんな誘いがあっても、その前に先ず私たちは、霊的な何かによって満たされなければなりません。そうでなければ必ずぶつかります。ぶつかって、それで失敗してしまいます。しかしイエス様に耳を傾けよう、み旨を知ろうと努力した後ならば、ぶつかりがあっても、それは単なるぶつかりとして終わるのでなく、次の段階へ発展するためのものだと、理解できるはずです。

皆様、この共同体にも、いろいろなぶつかりがあると思います。個人的なぶつかり、団体的なぶつかり……。しかし私たちは、信仰の中では、一致しなければなりません。だから、いつも主に耳を傾けようとする心が何よりも必要なのではないかと思います。

今日の第一朗読(ガラテヤ 3:24)では、使徒パウロが「断言します。」という表現を使っていますが、私も断言します。もし私たちが祈る共同体ならば、自然に和解ができます。しかし、理念や考え方によって和解しようとしても、そこには必ず無理が生じます。だから、祈りましょう。

ありがとうございました。